別添1

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成31年1月10日

協議会名： **粟島浦村地域公共交通協議会**

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
粟島浦村	県道ルート	・頻繁に使用する乗降場付近に雨風を凌げる場所がなく課題となっていたことから、平成31年3月までに停留所に雨風よけを設置する予定であったが、県道に近く、簡易的な雨風よけは設置できないことが分かった。今後、県道から離れた場所に雨風よけを設置するために、バス停位置の移動も含めて再検討することとした。 ・粟島浦村と新潟市を繋ぐ航路を44年ぶりに復活し実証運航するイベントを企画したり、新たな福祉イベントとして「かろやか体操会」を開始するなどして、外出意欲を高めるようにしている。	A	台風、豪雨災害の影響により運行ができない日が2日あったが、事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	住民利用者数が2,230人であり、目標の住民利用者数2,200人維持（平成28年度住民利用者数同等）が達成できた。	・引き続き乗降場への雨風よけの設置を検討する。 ・引き続き地区間移動の目的となるイベントを企画するなど、外出意欲を高めることで利用者数増加へ繋げる対策を検討しながら、コミュニティバスの維持を図っていく。

別添１－２

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月10日

協議会名：	粟島浦村地域公共交通協議会

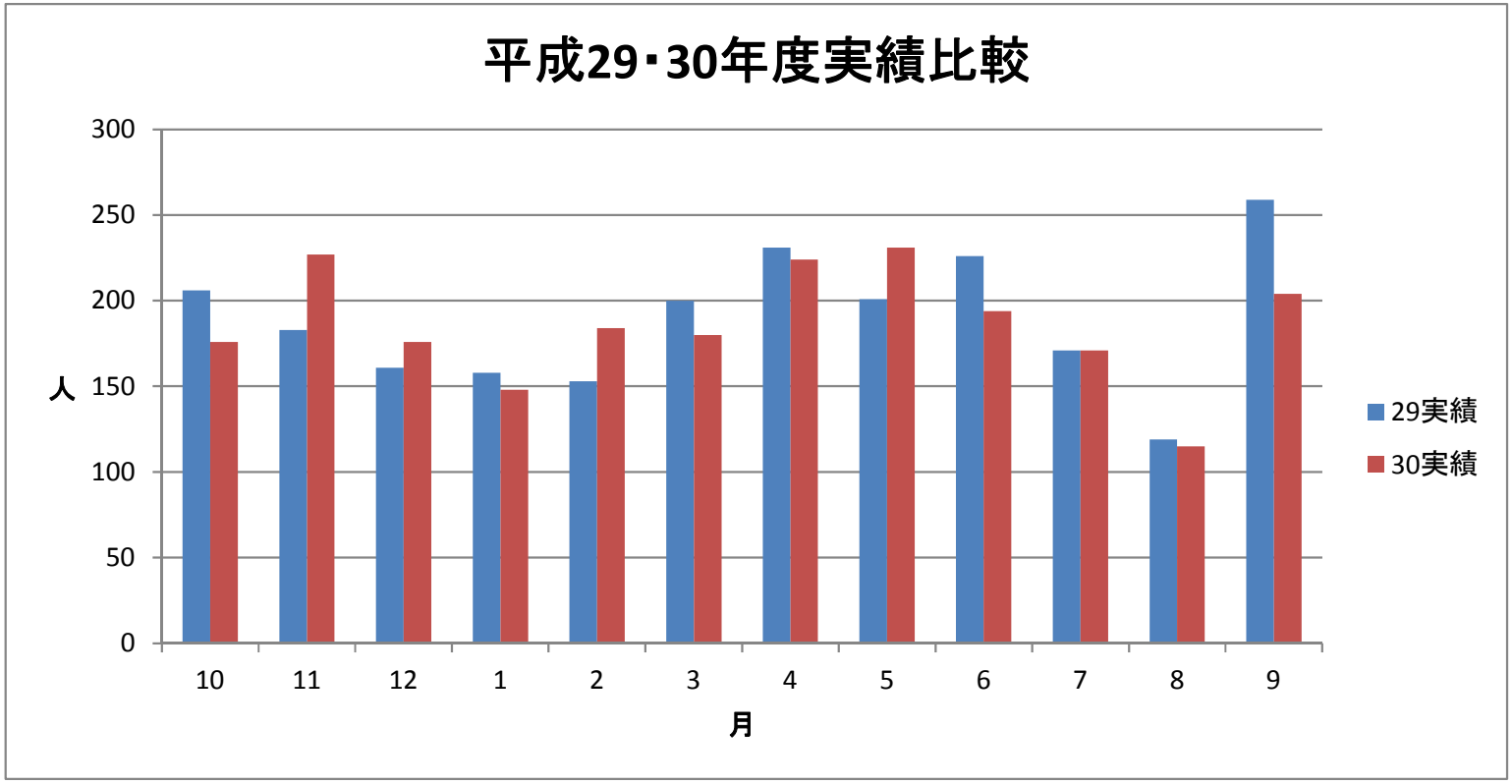
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	（1）事業の目的 粟島浦村は、新潟市の北方約63km、村上市岩船港の北西約35kmの日本海に浮かぶ面積9.78km2、周囲22.3km、人口370人（平成27年国勢調査）の孤立小型離島で、島のほとんどを山地・丘陵地が占め、漁業及び観光が基幹産業となっている。村内には、粟島と本土村上市岩船港を結ぶ定期船乗り場（粟島港）、村役場、小中学校を始めとする主要な公共公益施設が立地する東海岸の内浦地区と、山地を挟んで西海岸に位置する釜谷地区の２集落がある。 また、内浦地区の粟島港と本土村上市岩船港を結ぶ唯一の粟島離島航路は、定期航路として高速船とフェリーの２隻が就航している。本村は無医村のため、医師の治療を必要とする住民は本土の医療機関に通院することになり、粟島離島航路は重要な地域間交通となっている。 こうした離島としての特性をもった本村の「定住環境の確保」及び「産業振興の推進」に向けた地域づくりの課題に対応し、住民や観光客の意向を把握・反映させた離島航路、陸上交通について総合的な公共交通という視点から、「粟島浦村地域公共交通協議会」における協議を経て平成21年3月、『粟島浦村地域公共交通総合連携計画』を策定した。 本事業は『粟島浦村地域公共交通総合連携計画』に位置づけた地域公共交通計画のうち、粟島離島航路と接続する島内及び本土村上市中心部における陸上交通の確保維持を推進することを目的とする。 （平成28年度から本土村上市中心部における陸上交通は、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用しておらず、補助金評価対象には含まれない。） （2）事業の必要性 １）島内交通の確保維持 本村の島内は、公共交通空白地域で民間のタクシー会社もない。そのため、釜谷地区からの通学のために運行していたスクールバスを、余裕がある範囲内で住民全体が利用していた。しかし、こうした状況は少子高齢化が顕著な住民の日常生活に、深刻な影響を与えていくと懸念されていた。また、観光客も村内のキャンプ場等への移動に苦慮しており、本村の観光振興を図る上でのネックともなっていた。 このような状況を背景として、地域公共交通協議会での協議を経て、市町村運営有償運送によるコミュニティバスの実証運行を平成21年度より3カ年実施し、平成24年度から本格運行を開始している。 当該路線は、定期航路と接続し、島内移動手段になるとともにスクールバスも兼ねた唯一の公共交通機関であり、住民、観光客の利用意向が高いことから、引き続き関係者と連携しながら、路線の維持・確保を図っていく必要がある。 ２）岩船港～村上市中心部間交通の確保維持 結節点である岩船港と、駅及び病院等公共公益施設や商業施設が集積する村上市中心部を結ぶ交通は、民間バス1路線と民間タクシーがある。しかし、バス路線は岩船港直近の停留所が約1km離れているうえ１日の運行本数が少なく、高齢者の多い住民や鉄道利用観光客（観光客の約１割弱）のほとんどがタクシーを利用し、船賃とあわせて高額な交通費が負担となっている。 これを軽減するため、地域公共交通協議会での協議を経て、岩船港で定期航路と接続して村上市中心部を結ぶ乗合タクシーの実証運行を平成21年度より3カ年実施し、平成24年度から本格運行を開始している。 住民を始めとして利用意向が高いことから、引き続き、路線の維持・確保を図っていく必要がある。 （平成28年度から本土村上市中心部における陸上交通は、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用しておらず、補助金評価対象には含まれない。）

参考

平成30年度粟島浦村地域内フィーダー系統確保維持計画期間
コミュニティバス輸送実績（平成29年10月から平成30年9月）

※以下、目標としている県道ルートの住民利用者数



（人）

年度／月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	年度計
29実績	206	183	161	158	153	200	231	201	226	171	119	259	2268
30実績	176	227	176	148	184	180	224	231	194	171	115	204	2230
30目標													2200